

スズキ、インド・グジャラート州政府と新工場建設について基本合意



インド・モディ首相（右）とスズキ 鈴木社長



スピーチする鈴木社長

スズキ株式会社（以下、スズキ）は、新しい四輪車生産工場を建設することについて、インド・グジャラート州政府と基本合意しました。

インドでは、モディ首相をはじめ政府関係者らの列席のもと、グジャラート州ガンディナガルにおいてグジャラート州のイベント「バイブラント・グジャラート」が開催されています。今回の基本合意は同イベントにおいて発表され、スズキからは鈴木社長が出席しました。

今回、基本合意したグジャラート新工場は、スズキのインド子会社のマルチ・スズキ・インディア社が運営し、2028 年度の稼働開始を目指します。将来的な年間生産能力は 100 万台規模、投資額は 3,500 億ルピー（土地取得費除く）となる見込みです。取得する土地、生産モデル等、詳細については今後決定次第、発表してまいります。

さらに、スズキはスズキ・モーター・グジャラート社（以下、SMG）に 320 億ルピーを投じて、将来的な電気自動車の増産を視野に、第 4 生産ラインの設置についても発表しました。同ラインは 2026 年度の稼働開始となる見込みです。これにより SMG の生産能力は現在の 75 万台から 100 万台となり、グジャラート州での生産能力はグジャラート新工場と合わせて 200 万台体制となります。

スズキは、今後のインド四輪市場の拡大に備え 2030 年度までに約 400 万台の生産能力を確保できるよう計画しております。2025 年に稼働予定のカルコダ新工場（ハリヤナ州）での生産に加え、今回のグジャラート新工場および SMG 第 4 生産ラインにより、その計画は着実に進めてまいります。

鈴木社長は、同イベントでのスピーチにおいて「成長を続けるインドにおいて、お客様の立場になって多様なモビリティの選択肢を提供することにより、インド国民の皆様と共に歩んでまいります」と述べました。

新工場／ラインの概要

工場／ライン	生産能力	投資額
グジャラート新工場	100 万台	3,500 億ルピー
SMG 第 4 生産ライン	25 万台	320 億ルピー

以上